

出産後の女性を支える認定産後ドゥーラ

仲野 郁代さん (57)

料理に掃除洗濯、赤ちやんの沐浴、きょうだいの世話にストレスを抱えがちな母親の話し相手

…。産後の女性の生活や育児を支える「産後ドゥーラ」の仕事は多岐にわたる。「お母さんは赤ち

やんのお世話だけで精いっぱい。少しでもホッとしてもらえる時間をつくりたい」

昨年2月、一般社団法人ドゥーラ協会から京田辺市内で初めて認定を受けて「ドゥーラステーション小春日和」を立ち上



る人がいない家庭が増えている。屋号の「小春日和」には、そんな母親たちのよりどころになりたいとの願いを込めた。

幼稚園で18年勤務した。幼児教育現場での仕事を「やりきった」と退職を決め、第二の人生に選んだのが産後ドゥーラだった。「やっと私も『恩送り』ができる」

産後サポートの普及にも力を注ぐ。行政も支援に乗り出しているが、利用へのハードルは高い。「ゼイタク」「みんな1人でやっているから」と悩みを抱え込む人は少なくない。パーソナリティ



「子どもたちとお母さんの笑顔が私の元気の源」。赤ちやんをあやしむながら、母親と話す仲野さん(中央) 宇治市宇治

子育て「恩送り」の番

げた。仕事場は依頼を受けた家庭。調理道具や抱っこひもなどをぎっしり詰め込んだリュックを背負い、府南部や奈良、大阪を駆け回る。

生まれ育った奈良市で幼稚園教諭として働きながら結婚、出産。京田辺市へ転居を機に専業主婦になり、約10年間4人の子どもの育児に没頭した。子育てが一段落後、仕事に復帰し、市内の幼

2男2女の子育ては幸せで大変な日々だった。幼稚園の行事に参加するのも一苦労。「すみません」と口癖のように謝っていた。「謝らなくていい」。助けてくれたのは周りの母親たちだった。

「恩送りよ。いつかあなたも誰かを助けてあげて」。気軽に頼り頼られる温かい雰囲気は救われた。高齢出産の増加や核家族化で、育児中に頼れ

ーを務めるFMうじのラジオ番組や、仲間と市内外で開く母親向けイベントで支援を受ける大切さを伝える。6月10日午後1時から、京田辺市南部まちづくりセンター(同市三山木中央)でワークショップを開催予定。「子育てがしやすい環境をつくって、お母さんたちに寄り添い続けたい」。京田辺市草内。(森田明理)